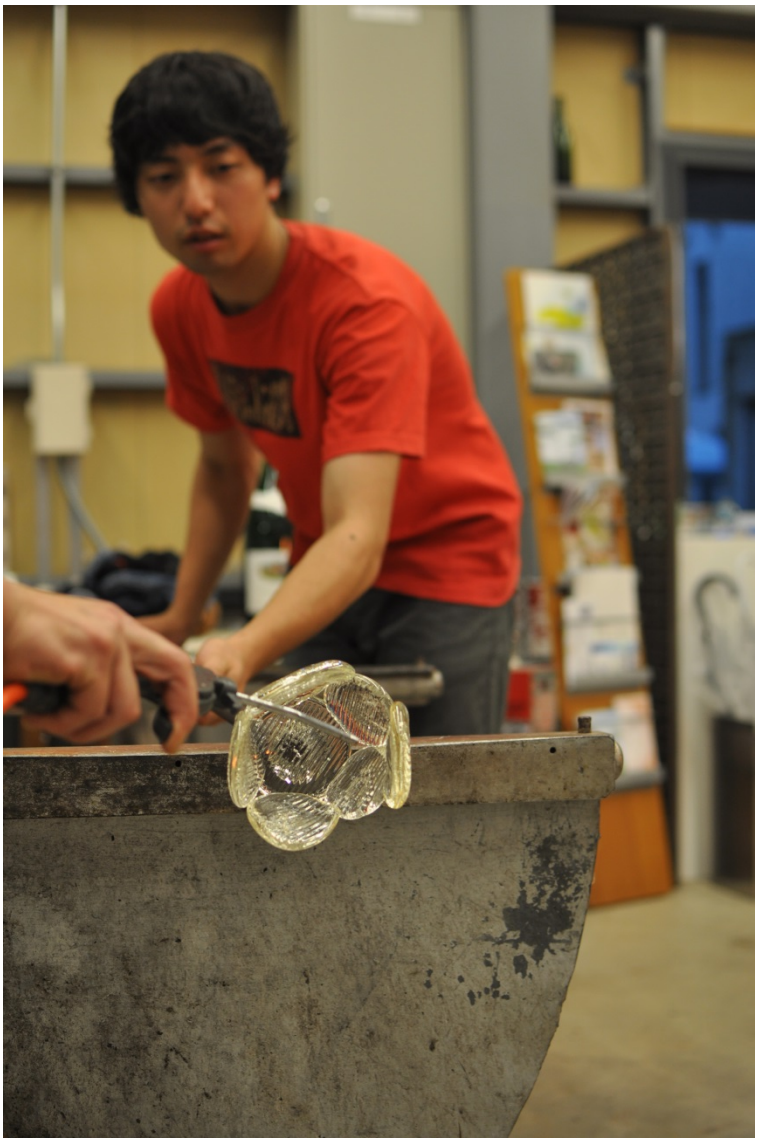
Workshop

高橋禎彦のガラスワークショップ

「宙吹き」という技法で、ふっくらとして、やわらかいフォルムの器やオブジェを制作しているガラス作家の高橋禎彦氏。最近はコップ屋タカハシヨシヒコとしても活躍されています。昨年に引き続き山のシューレ恒例になった高橋禎彦氏によるワークショップでは、アドバイスをもらいながら、道具の使い方やガラスを巻くという基本的なところからステップを踏んで、自分だけの個性豊かな器を制作していきました。

ガラス作家の高橋禎彦先生によるガラスワークショップ。熱したガラスを巻きつけながら、大きな器を作成していきます。



今度は丸いガラスをたくさんくっつけて器の形にしていきます。同じガラスの器でも制作手法はさまざま。

先生や他の参加者に見守られながら、器を形づくっていきます。

高橋 禎彦｜Yoshihiko TAKAHASHI

ガラスの成形方法で最も一般的なのが宙吹き（ブロー）。小さな窯でもその制作が可能な、スタジオガラスが生まれたのは 70 年代のアメリカ。 日本でも一足遅れて、工房が作られ、作品制作をする作家が出現します。80 年代、スタジオガラスが普及し始める頃から日本のガラス界の先頭を走って来たのが高橋禎彦さん。 現在でもその第一人者。今、境界がボーダーレスになっている“アート”と“工芸”と“クラフト”。でも、なんとなく存在しているその境界を、高橋さんは、軽々と飛び越えて活躍中。